

「免疫ふしぎ未来 2015」展で「ダイイングコード」の研究内容を紹介してきました。

東京薬科大学生命科学部 免疫制御学研究室

浅野 謙一



「免疫ふしぎ未来」展は、研究者と一般の人々とのコミュニケーションを目的として 2007 年から免疫学会が主催し毎年続いている科学展です。今年も日本免疫学会員の有志が中心となって、東京お台場の日本科学未来館で 8 月 9 日（日）に開催されました。生命科学に対する関心の向上と相まって来場者は年を追うごとに増加し、今年は老若男女 2600 名を越す参加者でにぎわいました。

「ダイイングコード」からは、須田先生と田中（稔）先生に、初心者にもわかるように研究内容まとめていただいたポスターを展示しました。私と中野先生がポスターの説明員として参加しました。人間と同じく、細胞にも多様な死の様式とそれにまつわるドラマが存在することを伝えることができたと思っています。「サイトカイン」や「パイロトーシス」などの専門用語を耳にして戸惑う参加者にも、アルコール性肝障害や肝硬変など身近な病気の話を織り交ぜることで、「なぜ異なった細胞の死に方が私達の体の中にあるのか？」や、「ダイイングコードを解明する意義」を理解してもらえたと思っています。来年度以降はムービーや臓器の写真を追加することができれば、さらに本領域の研究の重要性を伝えることができると思います。来年度も本領域の広報活動のために計画班員のみならず、公募班員からも説明員としての積極的なご参加をお願いします。